

一 (100点)

問一 ①不調法者、無調法者 ②文雅 ③仰(せ) ④応酬 ⑤褒(め)

(10点 2点×5)

問二

形容詞 助動詞 名詞 助詞 動詞 助動詞

未然形 連体形 未然形 連用形(または、終止形)

推量(または、婉曲) 打ち消し

長から / む 心 / も / 知ら / ず (18点)

問三 アお元氣だった イ上手に (8点)

問四 A 納得できない C 詠んだ (8点)

問五 和歌の五七五七七の三十一文字(音)で詠むという形のこと (6点)

問六 (1)「」の付いているところは実際口にした言葉であるのに対して、ここは新少将ノ君の言いたかったことを想像して書いたものなので()にしたと考える。(8点)

(2) 美濃が歌を不得手としていることについて (8点)

(8点)

問七 よろこび (4点)

問八 (1) 詩悪踏襲古人之意 (5点)

(2) (亦)また (蓋)けだし (6点 3点×2)

(3) 踏襲していながらますます上手で、最初から自分で作ったかのようなものもある。(9点)

(4) 「福」と「禍」を「歓華」「咎責」と変えて内容を具体的にしぼり込み、「身」「世」を「眼」「両儀」とすることで世の中はいいことがより少なく、わるいことがより多くなるように表現されている点が優れている。(10点)

二 (100点)

問一 ①【受け入れることなく】拒否、拒絶など

②【しんぼう】我慢、忍耐など

③【ぞんざい】乱暴、無礼など

④【きたなき】不潔など (16点 4点×4)

問二 (子規の) 大学を退学し、俳句革新運動に専念しようという決意 (8点)

問三 (1) (漱石は) 子規に大学をやめてほしくないという気持ちを伝えるのに、子規が得意とする俳句の形がふさわしいと考えてそうしたのだと(私は)思う。(10点)

(2) ア 徳川家康 イ 織田信長 ウ 豊臣秀吉 (6点 2点×3)

問四 (1) 徳川十五代将軍慶喜が大政奉還を行い、江戸幕府が自壊したことにより、武家政治が終わった年 (10点)

(2) 尾崎紅葉『金色夜叉』、幸田露伴『五重塔』、斎藤緑雨『かくれんぼ』 (6点)

問五 観察力に優れた人 (8点)

問六 子規が景勝地を訪れ、写生的視線で景色を見て俳句を詠んでいるのに対して、熊楠は動物園や自然史博物館を訪れ、博物学的視線で動物を観察しているという違いがある。 (16点)

問七 E 喜ばずにいようとしてもがまんできかない。 (8点)

F この時のわたしの喜びは虚子にしかわからない。 (8点)

問八 坊っちゃん (4点)